

白杵市 施策評価シート
(令和4年度)

評価担当者	課名	氏名	内線
	教育総務課	後藤 誠也	3100

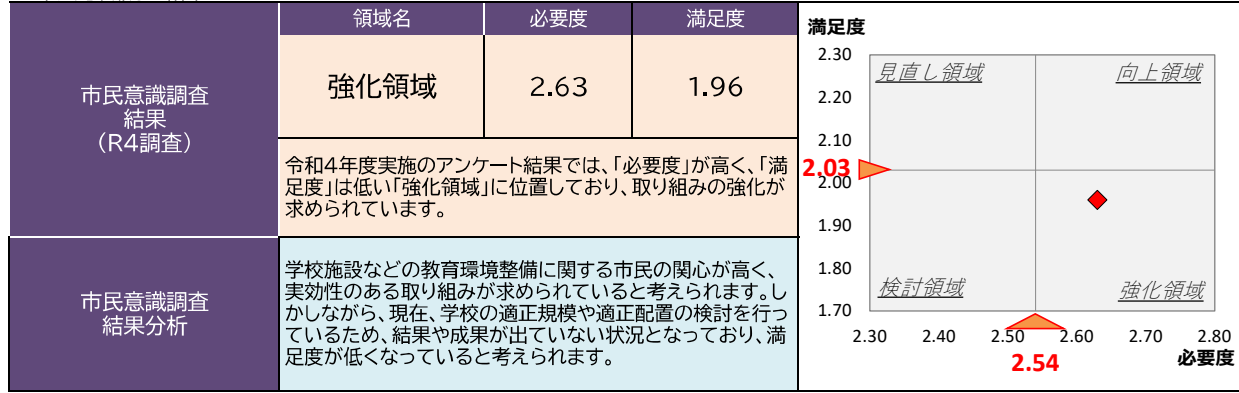
コード	V-12-25	施策名	教育環境の整備・充実
施策の方針	ふるさとを担うたくましい人材を育てる		
まちづくりの方針	磨き輝き続ける市民がつながり、白杵っこが育つまち(学び)		
5年後のめざす姿	教育施設を適切に維持管理することにより、安全で快適な教育環境をめざします。さまざまな教育効果のある小中一貫教育(義務教育学校及び小中一貫校)の導入の検討や、学校の適正配置、安全な通学路や通学方法など、少子化の動向などを見極めながら、子どもたちにとってよりよい教育環境を整備します。		
施策の内容	毎年、各学校からの要望に対して、緊急度や危険度、所要額等を考慮しながら、適宜修繕等を行います。また、学校設備や一般備品、また、情報(ICT)関連機器の更新についても老朽化等の状況を見ながら、適宜、更新を行います。小中一貫教育の導入については、学校適正配置を念頭に置き検討します。また、児童・生徒数や施設・設備の老朽化等も踏まえながら、将来を見据えた給食センターのあり方を検討していきます。		

<指標>

新規指標	指標名	説明・算式・引用	実績の推移							
			単位	R1	R2	R3	R4	R5	R6	
○	小中一貫校の整備に向けた検討	小中一貫校の整備を検討する対象数(ブロック数)	目標	ブロック	0	0	0	0	0	1
			実績		0	0	0			
			達成率	%						
	ICT機器(タブレット)整備割合	2023(令和5)年度までに児童・生徒一人1台の端末整備	目標	%	100.0	100.0	100.0			
			実績		18.2	100.0	100.0	100.0		
			達成率	%		100.0%	100.0%	100.0%		
	ICT機器(電子黒板)の整備	全体の電子黒板導入台数(169台)に対する累計の導入台数の割合(%)	目標	導入率(累計)				13.6	62.6	100.0
			実績							
			達成率	%				100.0%		

指標の分析
小中一貫校の整備を検討する対象数については、令和4年度に「白杵市公立学校のあり方内検討委員会」を設置し、公立学校のあり方に関する基本指針(案)を取りまとめました。取り組みが検討過程であることから、本年度実績は0となっています。ICT機器(タブレット)整備の指標が達成したことから、令和4年度からICT教育環境整備として、次のステップとなる電子黒板の整備を指標として設定しています。本年度、3校に電子黒板を試験導入し、機器の効果検証を行っています。

<市民意識調査結果>



<次年度以降の課題>

令和5年度以降の課題
全ての児童生徒にタブレット端末が行き届いたことから、令和4年度にはデジタルドリル(ソフト)教材の導入や一部の学校に電子黒板の試験導入を行いました。今後、電子黒板の効果検証を行いながら、全校配備に向け取り組みを進めていきます。小中一貫校の整備のあり方については、今後の学校施設の大規模な改修・修繕等と密接な関係があるため、早めに教育委員会の方針を固め、整備方針に反映させていく必要があります。また、学校給食については、少子化の進展による児童・生徒数の減少や施設及び設備・機器等の老朽化も視野に、将来に向けた施設や組織体制のあり方の検証が必要です。

<施策を構成する主な事務事業一覧表>

事務事業名	事業内容	担当課 ※実施した課を記入	課の重点 ※運営計画記載	事業費(単位:千円)			課長評価	公共5カ年	他の関連施策コード	
				R3年度実績	R4年度実績	令和5年度年度見込み				
1	小学校施設補修工事費	小学校の施設改修工事費用	教育総務課		31,683	17,859	100,318	継続	○	
2	小学校施設等補修修繕	小学校の施設等の修繕費用	教育総務課	○	6,500	8,277	6,500	継続	○	
3	中学校施設補修工事費	中学校の施設改修工事費用	教育総務課		7,192	6,486	27,239	継続	○	
4	中学校施設等補修修繕	中学校の施設等の修繕費用	教育総務課	○	3,586	4,019	3,420	継続	○	
5	スクールバス等運行事業	遠距離通学に伴う児童・生徒の通学支援を行う	教育総務課		33,677	35,959	37,600	継続	○	
6	電子黒板導入モデル事業	電子黒板を試験導入し、その効果及び活用方法などを検証する	学校教育課		-	5,010	-	重点化	○	
7	デジタルドリル教材	全児童生徒のタブレット端末にデジタルドリル教材を導入し、学校及び家庭学習を効果的に進める環境づくりを行う	学校教育課		-	4,685	5,049	重点化		
8	ICT支援員業務委託料	ICT支援員を配置することで各校へのサポートを行う	学校教育課		10,100	13,167	14,540	継続		
9										
10										
合計					92,738	95,462	194,666			

<施策の今後の展開 ~担当課長評価>

進捗状況	ICT機器(電子黒板)の整備については、令和4年度に小学校1校、中学校2校をモデル校として試験導入し、その効果及び活用方法などを検証することで今後の整備に繋げていきます。また、小中一貫校の整備のあり方については、令和5年度に白杵市公立学校のあり方内検討会(仮称)において、公立学校のあり方に関する基本方針(案)のなかで適正規模・適正配置等の基準について、協議・検討していきます。学校の施設・整備については、適宜修繕等を行います。大規模改修等については将来の適正配置と併せて検討する必要があると考えています。少子化に伴う学校給食の食数減少や施設、機器等の老朽化等により、給食の安定的な提供に対するリスクが高まっており、本市の将来にわたる学校給食事業のあり方についての検討が求められています。	課長評価	最重要施策であり、来年度強化する
------	--	------	------------------

<施策の今後の展開 ~内部評価(内部検討会)>

実施年度	学校の適正規模・適正配置、学校給食事業の検討は、人口減少や少子高齢化の中、また、学校などの施設が老朽化し、今後大規模改修などを実施するにあたって、重要な検討であるため、最重要の施策として取り組みます。また、ICT機器の整備に当たっては、モデル校での効果検証を行いながら、今後の整備を進めていきます。	内部評価	最重要施策であり、来年度強化する
------	---	------	------------------

<白杵市行財政活性化推進委員会による外部評価:最終>

外部評価	評価のコメント
強化	学校の適正配置・適正規模は地域づくりに密接に関わるため、検討内容は非常に重要であるため、取り組みを強化してほしい。また、学校の変化にあわせて、教職員の役割も変化しているため、負担軽減を図る取り組みも検討してほしい。

<白杵市行財政活性化推進委員会を受けての市の取組>

学校の適正規模・適正配置については、重要な検討であるため取り組みを強化していきます。また、子どもたちを有責、危険サイトから守りながらICT教育のメリットを最大限享受できる環境を整えていきます。更にデジタルドリルや授業支援アプリ等を授業・教材作成に活用することで、教員の負担軽減にも資するよう活用能力の向上にも努めていきます。